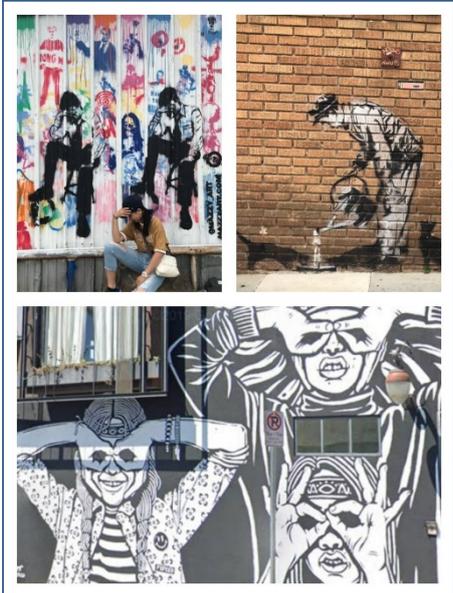


カリフォルニアのストリートアートについて

野本 実奈 (高校2年)

この夏、私はロサンゼルス近郊のいたるところで建物や壁に描かれた絵や文字の様なものを目にしました。それらは「ストリートアート」といい、ペンキやスプレーで描かれるいわば「落書き」のことです。誰もが一度は見たことがあるのではないのでしょうか。基本的に無断で描かれる落書きはどこでも違法とされています。日本はストリートアートに対して世界的に厳しい国といわれているそうです。確かに、見つければすぐに撤去されてしまうし、あまり良いイメージを抱かない人が多いと思います。しかし、カリフォルニアは他の国々と比べて寛容であるとホストファミリーが教えてくれました。これは私が感じた日本とアメリカの文化の違いの1つです。そこで、私が訪れた中からアートがたくさん見られた場所をいくつか紹介しようと思います。

1つ目は、サンタモニカの近くにあるベニスビーチ。さまざまなショップ、グルメ、アートなどが溢れたにぎやかなビーチタウンです。どこを見てもカラフルで個性的なアートばかり！写真を撮る手が止まりませんでした。中には公式のアートもあり、ショップを華やかに彩っていました。さらに、日本でも話題になったあのバンクシーの絵もあります。まるで街全体がキャンバスのようなようです。これらのストリートアートは撤去されずに、ビーチタウンの雰囲気を作り出す主体となっていました。



2つ目は、ロサンゼルスダウンタウン。ポップなベニスのアートと対照的に、スケールが大きくインパクトがあるものでした。ホストファミリーから聞いた話ですが、LAなどの都市は特に社会問題を皮肉ったアートが多いそうです。時代背景を知るのにアートは良い手段だと思いました。写真を撮るだけでなく、じっくり考察して過去に思いを馳せるのも面白いですよ。

また、なんでも自由に描いているように見えるストリートアーティストの世界にも「上塗りは初めに描いた人より上手い人にしか許されない」というような暗黙のルールがあるようです。

場所ではありませんが、もう1つ私が気になったのが観光客からも人気があった「天使の羽」のストリートアート。日本でも見た覚えがあったので詳しく調べてみると、これはアーティストの ollette Miller 氏が手掛けた LA 発祥のプロジェクトだということが判明しました。Global Angel Wings Project という名前で、天使の羽には「私たちは地球に生まれ落ちた天使、愛と平和を願っている」という意味が込められているそうです。日本だけでなくさまざまな国にこのアートは存在し、今も広がっています。世界の架け橋を見つけられた気がして、なんだか嬉しかったです。

落書きから始まり、今では街並みの一部となり人々に愛されているストリートアート。日本ではあまりオープンにされていないからこそ、アメリカのアート溢れる街はとても新鮮で、その良さ、奥深さを感じることができました。今回アメリカという多種多様な国を訪れ、ホームステイを経験して、異なる文化や価値観に触れる機会がたくさんありました。そのどれもが衝撃的で、他国を知ると同時に自国の良さも再発見できます。異文化交流の意義を存分に感じられた3週間、本当に貴重な経験をありがとうございました。